

(2)今より明日の情報を

暑さ寒さも彼岸まで・・・と云われ、さしもの猛暑にさいなまされたことがウソのように思われる頃となってきました。ほっと一安心と云ったところですが、夏バテは人だけではなく、野菜や果物たちも同様であり、夏の高温・少雨によって10月以降に本格的出回りとなる秋野菜にも播種や育苗の遅れが続いての収穫のずれ込みばかりか、小玉化傾向や規格外品の発生など品質的な問題をも派生し易くなります。こんなことは作る側からは理の当然と一蹴されますが、売る側・食べる側では喉元過ぎれば・・・の譬えのように見事に忘れ去ってしまいます。

野菜の値段が高くなったと取沙汰される度に、やれ前倒し出荷だとか規格外品の出荷を、などと騒がれますが、天候条件に左右されがちな農産物は旬・月という短期的な騰落の変動幅は大きいものです。そして産地の動きに比較的連動し易いのは卸売市場段階での価格形成ですし、入荷数量の増減に敏感に反応してくれます。それに対し、小売売価には固定的な面があり、数量の増減と価格の騰落は連動しにくい状況が作られています。殊に量販店などは4定（定時・定量・定質・定価格）を旨としている為に、作る側とのミスマッチが往々に起き易くなっています。

価格は需要と供給との相対的な関係によって決まりますが、需給ともに周囲の環境や条件の変化などによって影響されることが多いものです。特に市場流通では公共性を強調されることから商物一致やせり売りなどが求められ、当日の需給バランスによっては大きくブレる事が多いと指摘されることもあります。そして、市場取引での量販店のシェアが拡大するに従って取引の主導権が量販店側に移り、市場外流通や輸入品依存の増もあって価格形成の弾力性を阻害する要因ともなり兼ねません。

マスコミなども大騒ぎしていたと思えば、旬日を出でずして全く逆の報道をしていることがあります。産地の状況を見ると品目によっての違いはあるものの、殆どの産地は上手に棲み分けをしている筈です。今は極めて厳しい状況に追い込まれていながらも、2旬・3旬の後にはこうなる・・・ということを感じながら圃場管理に勤しんでいるでしょう。そんなこんなを情報としてより早く流してやって欲しいものです。ある程度の先行きが見通せば構え方もそれなりに立ち回ってくれる筈です。

(鈴木重雄筆)